

利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所
 発行人 宇敷 重信
 〒 378-0031 沼田市薄根町 4412 番地
 TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180
 E-mail : tonekyou@pref.gunma.jp

「知識・技能の活用を図る学習活動」で思い出すこと

利根教育事務所管理主監 宮内伸明

2月15日、文部科学省から、幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領、中学校学習指導要領の改訂案が公表されました。その総則の「基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視する」〔第4、2の(1)〕を読んで、中学1年生の期末試験に出した問題を思い出しました。

つぎのような場合、英語でどのように言うか。()に適語を入れなさい。

◆眠っているケンを起こす場合 () () , Ken.

大部分の生徒は、学習したばかりの命令文と既習の一般動詞を組み合わせて (**Get**) (**up**) , Ken. と答えていました。しかし、採点を進めるうちに全く違う答え方をしている生徒がいることに気がつきました。最初は、単なる「間違い」として処理していたのですが、その数が10名を越える頃になってようやくその意図が分かり、あわてて「正解」としました。作問するにあたり、学んだことを記憶しているかどうかを評価することしか頭になかった私は、子どもなりに一生懸命考えて答えを導き出そうとしていることや、言葉は場面によって色々な意味をもつということまで思いが至りませんでした。その答えは、 (**Good**) (**morning**) , Ken. でした。また、学年でただ一人でしたが、 (**Ken**) , (**Ken**) , Ken. と答えた生徒がいました。初めはしっかり「×」を付けてしまったのですが、その子の「生きる力」の一端が現れているように思い直し、丁寧に「◎」を付けて返却しました。



後日、外国人講師にその話をすると、『“Get up, Ken.”は、留置されている Ken を起こそうと、刑務官が大声で怒鳴っているような感じがする』と一言。「間違い」としたまま返さなくてよかった、と胸をなで下ろしました。

あれから二十数年、“Good morning, Ken.”や“Ken, Ken, Ken.”という答えは、「人は、生まれながらにして、身に付けた知識や技能を活用して課題を解決しようとする意欲も能力ももっている」という、子どもたちからのメッセージだったのではないかと、今、思いを新たにしています。

新しい学習指導要領への移行措置は、平成 21 年度から始まります。来年度は、現行の学習指導要領による教育課程を編成・実施することになりますが、新しい学習指導要領についての研修を深めたり、その趣旨を積極的に取り入れた授業を工夫したりするなど、移行措置に向けての準備が進められるよう、利根教育事務所も指導・助言に努めてまいります。

生涯学習グループ

— 地域の教育力を生かした授業実践 —

管内の各学校では、学校支援センターの機能を生かし地域の人材や団体と連携・協力して授業の充実を図っています。

○一人一人の子どもへのきめ細かな指導

- ・小学校5年の家庭科のミシンを扱う授業で、各学習グループに一人ずつ学校支援ボランティアが入り指導したことにより、技能の確実な習得ができた。

○外部人材の専門的な知識や技能を生かした指導

- ・中学校3年の国語科「書写」の授業で、毛筆の専門家と連携した指導により、字形が整うなど技能の向上がみられた。
- ・小学校5年の総合的な学習の時間「米作り」で、地元農家の方と連携・協力した指導により、田植えから稲刈り、わらぞうりづくりまで年間を通した一連の体験活動を充実することができた。



○多様な職場選択を可能にした指導

- ・中学校2年の総合的な学習の時間「チャレンジウィーク(職場体験)」で、行政機関や商工会、福祉施設など地域全体と連携・協力した取組により、生徒が主体的に職場を選択し、目的を明確にした体験活動を行うことができた。
 「地域や団体の方の多くが、学校で子どもにうまく教えられるように、自分たちも練習したり学んだりしています。」
 「また、子どもとの触れ合いを楽しみにしているという声も多く聞かれます。」

『平成20年度学校教育の指針』(群馬県教育委員会)には、「地域の教育力の活用」として「専門的な知識や技能をもった外部人材と連携した授業の推進」「学校支援センターの運営体制の充実と活動内容の工夫」が明記されています。

利根教育事務所では、来年度も学校訪問をさせていただき、地域の教育力を生かした取組事例の収集及び情報の提供、助言等を行っていきたくと考えています。

学校教育グループ

－ 今後の授業改善に向けて②(集団解決の場)－

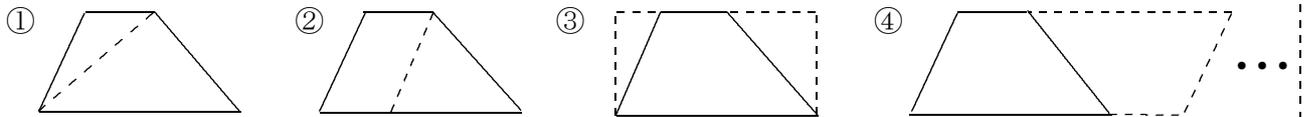
利根・沼田の教育第9号では、授業づくりにおける「ねらい」の吟味の重要性について述べました。今回は、いわゆる「集団解決の場」で大切にしていきたいことを、小学校5年算数の「平面図形の面積」を例に説明します。

本時のねらいを達成するために、「集団解決の場」でどんな観点から意見の交流をさせたらよいか構想する。
 (「自力解決の場」での予想される解決方法をもとに)

<本時のねらい> 既習の図形の求積方法に帰着させて、台形の面積の求め方を考えることができる。

小学校学習指導要領解説算数編P137, 138参照

【「自力解決の場」での予想される解決方法の例】



【「集団解決の場」での発問と、予想される子どもの反応】

※各方法について、正しいことを確認し、それぞれのよさを認める。その後、次のような比較・検討を行う。

A先生

☆よりよい方法はどれか考えさせたい。(いつもこの方法が有効だと考えている)



一番よい方法(簡潔性・一般性・明瞭性など)はどれでしょう？

どれも、よいと思うけど…どう答えたらよいのだろう？



B先生

☆根拠を丁寧に聞き、既習事項を活用する有効性に気付かせたい。(本時のねらいを意識している)



なぜ、そう考えたのですか？共通する解決のポイントは何だったのでしょうか？

今までに習った三角形や平行四辺形などの面積の求め方を使えばいいんだ！この方法ならば、ひし形も求められるね！



C先生

☆分ける・くっつけるなどの方法を意識させたい。(操作活動だけに目が向いている)



考えた方法を仲間分けしましょう。

二つの図形に分ける方法と、くっつける方法と、外側に作る方法と…？



教師の発問により、子どもの反応が大きく変わってきます。B先生のように「本時のねらいを達成する」という視点で「集団思考の場」における発問や意見交換のさせ方を十分に検討しておく必要があります。ただし、A先生の発問は、よりよい方法を見い出すときに有効であり、C先生の発問は、これで終わりにせず、他の発問と組み合わせると有効です。本時のねらいに応じて、選択したり、組み合わせたりするなどの工夫が大切です。